

医療と介護の連携

アナ： 「市長が語る 2018 三島」第 17 回の今日は、「医療と介護の連携」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： まず、「医療と介護の連携」とは、どのようなことでしょうか。なぜ、連携が必要なのですか。

市長： 三島市では、平成 26 年に高齢化率が 25%を超え、4 人に 1 人が高齢者という状況にあります。平成 30 年 3 月 31 日現在では 28.3%となっており、高齢化は今後もさらに進んでいくものと見込まれています。7 年後の 2025 年には、いわゆる団塊の世代の方がすべて 75 歳以上になり、病気を抱えたり、介護が必要になる方が増えると予想されています。医療と介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療と介護の連携が求められています。

アナ： 具体的にはどのような取組が進められているのでしょうか。

市長： 拠点機関といたしまして、平成 29 年 5 月 1 日に、「三島市医療介護連携センター」をオープンしました。医療と介護、両方の専門知識のある在宅医療コーディネーターが常駐し、おもに医療の相談に応じています。

アナ： 医療の相談とは、どのような相談ですか。

市長： 例えば、「通院することができない」、「往診してくれる医師を知りたい」、「自宅で看取りたい」といった相談になります。本人や家族はもとより、医療・介護の専門職の方も含め、すべての方からの相談に応じています。相談の対象は、原則、市内在住の 40 歳以上の方を想定していますが、それ以外の方の相談があった場合は、必要に応じて関係機関をご案内するなど、適切に対応いたします。相談費用はかかりません。

アナ： 往診する医師は、すぐに見つかるものなのでしょうか。

市長： 県内初の取組として、三島市医師会の協力のもと、市内を 4 つの地域に分けて、輪番制で往診する医師を決めています。まずは、在宅医療コーディネーターがご自宅を訪問し、病気の状態や希望をお伺いした上で、担当する医師を調整します。最初の往診時にも同行しますので、ご安心いただきたいと思います。

アナ： 病院に行けなくなっても、医師が自宅を訪問してくれると安心ですね。三島市医療介護連携センターの相談時間や場所を教えてください。

市長： ○相談時間は、月曜日から金曜日 午前 9 時 30 分から午後 4 時まで
○場所は、南本町にございます、三島市医師会館の 2 階です。
建物としましては、三島メディカルセンターの隣の建物になります。

○電話番号は、055-972-0712 です。

電話予約は不要ですが、コーディネーターが訪問などで不在の時もありますので、ご不明な点についてはお気軽にお問合せいただければと思います。

もちろん、お電話でのご相談にも対応しております。

アナ： 三島市医療介護連携センターでは、介護の相談もできますか。

市長： 介護の相談窓口としては、市内4箇所に地域包括支援センターが設置されています。お住まいの地域によって、北上地区、錦田地区、中郷地区、旧市内地区にそれぞれ地域包括支援センターがありますので、詳しくは三島市地域包括ケア推進課までお問い合わせください。三島市医療介護連携センターとともに、自宅での生活を支えていきますので、ご安心ください。

アナ： なるほど。医療と介護のそれぞれの相談機関が連携しながら、住み慣れた地域で安心して生活できるように支えてくださる、ということですね。

市長： そうですね。三島市では3年ほど前から、医療と介護の関係団体の代表者で構成する会議を立ち上げています。その中で、連携する上での課題や方法などについて話し合いを重ねてまいりました。また、医療と介護の専門職が一堂に会する研修会を開催するなど、専門職同士の顔の見える関係づくりも積極的に進めています。

アナ： 専門職同士も連携していかなければならないのですよね。今後の展望をお聞かせいただけますか。

市長： 市民の皆様が将来、医療や介護を受けて生活する必要が生じた時に、必要なサービスを適切に選択できるよう、普及啓発を進めていきたいと考えています。毎年、三島市医師会、三島総合病院、三島市が主催して医療をテーマに市民講座を開催していますが、今年度は「在宅医療と介護」をテーマとして、10月27日に三島市民文化会館で開催する予定です。ラジオをお聞きの皆様も、ぜひお越しいただきたいと思います。

アナ： 医療と介護が車の両輪のように連携しながら、高齢者の生活を支える取組を進めているということですね。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。